第 1905 回 定例研究会報告要旨 (10月29日)

ベトナム農業金融における集落の補完的役割

岡江 恭史

1960年代以降、東南アジア各国で政策的に設立された金融制度は、資金分配の偏り・低い資金回収率・高い取引費用等の問題を残した。ベトナムにおいては、ドイモイ政策の一環として中央銀行から農業銀行が独立し、また農業銀行の融資を受けられない貧困世帯への低利融資を目的に貧民銀行が設立された。貧民銀行の融資に際して村落内大衆組織の指導のもと貯蓄借入グループという共同債務グループが結成され高い資金回収率と取引費用の削減をもたらしたことは明らかにされているが、この組織および共同債務グループについての実態は明らかにされていない。

本報告では、著者がベトナム紅河デルタにて行った調査結果を主たる材料に、農業金融の仲介を行う村落内大衆組織および共同債務グループの実態を明らかにし、集落の補完的役割を指摘する。

調査地のバックコック村は、紅河デルタのほぼ中央に位置し、非農業の現金収入源が少なく、人口が稠密で、農地のほとんどが二期作の水田であるなど典型的な紅河デルタ農村である。調査村で貯蓄借入グループが実際に結成されていたのは、ただ一集落のみであった。当該集落および比較対照のためのもう一つの集落において調査時点(2000年)までに実行されたすべての銀行融資(農業銀行および貧民銀行)について調査を行った。

96年より始まった貧民銀行融資の仲介は祖国戦線(共産党の翼賛組織)、特に農民会によって行われている。農民会は行政村レベルでは人員・予算の面でも不十分であり、実質的な活動は集落レベルの支会が行っている。農業生産においては合作社(農協)が中心的な

役割を担っており、農民会は補助的な役目しかしていない。

貧民銀行の融資に際して農民会の指導のもとに結成される貯蓄借入グループは融資のたびに結成されるのではなく、集落全体で融資を受ける人間がすべて入会し返済後も留まる。完済した会員も債務不履行になった会員の債務を肩代わりする義務があるが、そのことを理解している会員は少ない。集落長が将来の債務不履行に備えて基金を構想しているが、誰も拠出せず、事実上共同債務グループは機能していない。貧民銀行の実際の手続きおよび日々のモニタリングは集落単位にある祖国戦線の各支会によって行われている。

貧民銀行と違い以前は担保が必要であった農業銀行の融資も、99年3月の首相決定第67号によって1000万ドンまでは無担保で受けられるようになった。これを受けて調査村では、集落ごとに借入者グループが結成された。この借入者グループも共同債務機能を有しないが、グループ長(両集落とも集落長が兼任)が手続き代行およびモニタリングをしている。

融資を仲介する農民会の活動は活発とは言えず、共同債務グループも事実上機能していない。にもかかわらず、かつての各個人が直接銀行から融資を受けていた時代に比べて、現在は取引費用(銀行側の取引費用として融資対象者の決定およびモニタリング、借入者側の取引費用として交通の実費および機会費用があげられる)が削減されており、債務不履行も今のところない。

ベトナム農業金融が良好なパフォーマンスを示しているのは、実質的に集落が融資仲介を行っているからである。集落は独立以前から範囲を変えずに存続し、村落内のあらゆる活動および組織(行政・合作社・祭礼・祖国戦線・共産党)の基本単位であって、村人にとって最も身近な共同体である。それゆえ、財政的基盤がなくてもモニタリングを行うことは容易である。